

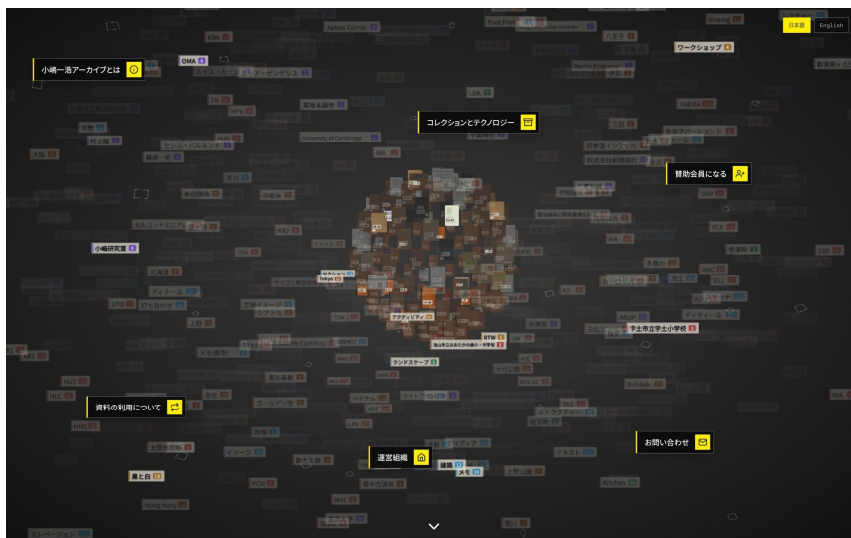
PRESS RELEASE

東京大学

建築家・小嶋一浩のデジタルアーカイブを公開 ——没後 10 年、スケッチとノートから創作の過程をたどる——

発表のポイント

- ◆一般社団法人小嶋一浩アーカイブが、建築家・小嶋一浩のデジタルアーカイブを開発し、東京大学の研究者が開発協力と学術支援を行いました。
- ◆卒業生による手作業と AI で 22,605 件の注釈を整備し、公開対象の資料を 3D 空間・時間軸・地図から横断的にたどれる仕組みを整えました。
- ◆完成した建築だけでは捉えにくい設計の試行錯誤や教育・執筆の記録を参照でき、建築研究や設計教育での活用が期待されます。



小嶋一浩アーカイブのトップページ

資料・注釈の全体像を 3D 空間で見渡す（画像提供：小嶋一浩アーカイブ）

概要

一般社団法人小嶋一浩アーカイブは、建築家・小嶋一浩（1958-2016）が遺したスケッチやノートなどを探索・閲覧できるデジタルアーカイブ「小嶋一浩アーカイブ」を開発し、没後 10 年にあたる 2026 年 10 月 13 日 14 時に公開いたしました。東京大学大学院情報学環の渡邊英徳教授、同大学史料編纂所の中村寛准教授らが、開発協力と学術支援を行いました。

城戸崎和佐氏が所蔵する資料を対象に、261 件の資料情報と 11,552 画像を収録しています。東京理科大学小嶋研究室の卒業生による手作業と AI で 22,605 件の注釈を整備しました。公開対象の資料は、日付や地名、プロジェクト名などを手がかりに横断的に探索できます。3D 空間での俯瞰と個々のページの詳細閲覧を行き来でき、建築家の創作過程を一次資料から読み解くための基盤となることが期待されます。公開範囲は権利関係と個人情報を確認した資料に限り、一般閲覧と会員向け閲覧を設けています。

発表内容

背景と目的

小嶋一浩は、建築設計と教育の両面で活動し、スケッチやノートに多くの記録を残しました。これらの資料には、完成した建築の写真や図面だけでは捉えにくい構想の変化や検討の跡が記されています。一方、手書きの資料を冊子ごとに保管するだけでは、複数の資料にまたがる話題や関連するページを見つけることは容易ではありません。

東京理科大学小嶋研究室の卒業生有志は、原資料を将来へ継承し、研究・教育・実践に活用できる形で共有するため、2026 年 8 月に一般社団法人小嶋一浩アーカイブを設立しました。同法人は、原資料の所蔵者である城戸崎和佐氏の協力と、東京大学の研究者による開発協力・学術支援を受け、アーカイブの構築を進めました。

人手と AI の注釈を手がかりに資料をつなぐ

収録資料には、1979 年から 2016 年までのスケッチブックやノートなどが含まれます。卒業生が付けた注釈に、AI を用いた文字認識などによる注釈を組み合わせ、日付、地名、プロジェクト名などを資料のページと関連付けました。例えば、A4 ノートに記されたビジュアル、ホログ、ナルインなどの地名を、関連するページを探す手がかりにできます。

探索画面では、資料と注釈の関係を 3D 空間で俯瞰し、分類・時間軸・地図の表示へ切り替えられます。時間軸には日付情報を持つ資料、地図には位置を特定できた地名に関連する資料を表示します。会員向けの詳細閲覧では、画像共有の国際標準である IIIF（注 1）に対応したビューアで、筆跡や描線の細部まで拡大して閲覧できます。

研究と教育への活用

本アーカイブの特徴は、手書きの一次資料に付与した注釈と、複数の視点から資料を探索する仕組みを組み合わせた点にあります。同じプロジェクトに関する記述を複数のノートから探したり、時期や地名を手がかりに記録を読み比べたりすることで、設計の試行錯誤や関心の広がり进行を考察できます。建築史研究や設計教育において、完成作品とその創作過程をあわせて学ぶための資料基盤としての活用が期待されます。

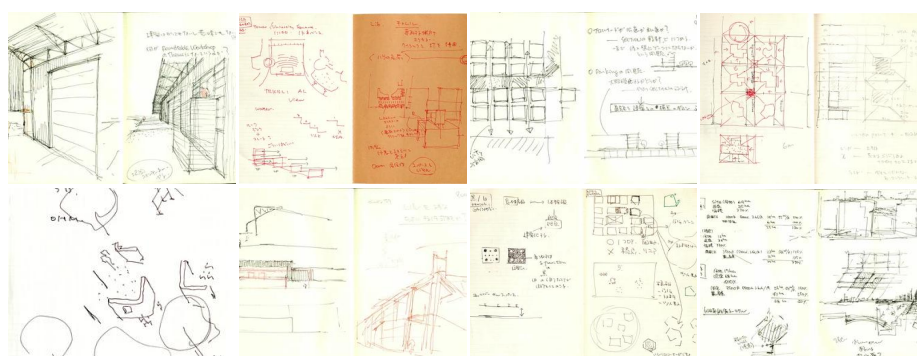


図 1 収録資料の例

画像提供：小嶋一浩アーカイブ

公開・利用について

名称：小嶋一浩アーカイブ（Kazuhiro Kojima Archive）

URL（アーカイブ・法人公式サイト）：<https://kojima-archive.jp/>（日本語・英語）

公開日：2026年10月13日

開発・運営：一般社団法人小嶋一浩アーカイブ

一般の利用者は資料や注釈の全体像を見渡し、選ばれた一部の資料画像を閲覧できます。賛助会員向けには170件・6,991画像を提供します。賛助会員は、2026年11月に受付を開始する予定です。

収録画像のすべてが閲覧対象ではありません。公開するのは、所蔵資料のうち権利関係と個人情報を確認したものに限りです。また、小嶋が関わったすべての資料を網羅するものではありません。資料の利用は、ウェブサイトに掲載する利用条件に従ってください。

小嶋一浩について

小嶋一浩（1958-2016年10月13日逝去）は、大阪府生まれの建築家。1984年に東京大学大学院修士課程を修了し、博士課程在学中の1986年に建築設計事務所「シーラカンス」を共同設立しました。東京理科大学、横浜国立大学の教授を務め、建築設計と教育の両面で活動しました。

発表者・研究者等情報

東京大学

大学院情報学環

渡邊 英徳 教授

史料編纂所附属前近代日本史情報国際センター

中村 寛 准教授

研究助成

本アーカイブの基盤技術の開発には、東京大学基金「戦災・災害のデジタルアーカイブ基金」を活用しました。

用語解説

（注1）IIIF（トリプルアイエフ）

IIIFはInternational Image Interoperability Frameworkの略称で、デジタル画像などを共通の仕組みで公開・利用するための国際的な標準規格です。対応する閲覧ツールを通じて画像の拡大や比較などができます。IIIFへの対応と、画像の公開範囲・利用条件は別に定められます。

問合せ先

〈開発協力・学術支援について〉

東京大学大学院情報学環

教授 渡邊 英徳（わたなべ ひでのり）

Tel：03-5841-5938（情報学環総務チーム代表）

E-mail：hwtnv@iii.u-tokyo.ac.jp

〈アーカイブの利用・掲載用画像について〉

一般社団法人小嶋一浩アーカイブ

E-mail：admin@kojima-archive.jp